郵便振替 02710-3-570 あごら札幌

あごら札幌

No. 244

あごら札幌 連絡先 細田 (011) 644-2927

今月通信担当 K. S

《今月の内容》

＜女と男のトーク・セッション2002＞聴講記・・1, 2
糾弾!! 駐韓米軍、2人の少女をひき殺した米兵に無罪を評決!・・・・・・・・・・・3
「基地は要らない! 女たちの全国ネット」in由布院 11月23, 24日 交流会に参加して・・・・・4, 5
説明責任は根付いたか?・・・・・・・・・・・・・・6, 7
情 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

2002.12.15発行 通信購読料 1200円（年間）

〈女と男のトーク・セッション 2002〉 聴講記

T

10 月 26 日、札幌市女性センターフェスティバルの一環として行われた「女と男のトーク・セッション2002」というイベントに行った。遥洋子さんと、文学の分野でジェンダーの問題などを扱っている北大の教官との対談という内容だった。私は単純に、上野さんの門下生遥さんをナマで見たい♪と思って出かけましタ。

遥さんはとてもきれいでとても細くて、さすが垢抜け、洗練されていた。私はきんちょーしてあまりはきはき喋れなかったが（質問タイムで質問しましタ）、そういう私を遥さんは温かく見守ってくれている様子で、やさしさを感じた。（そういうところは指導教官譲り・・・？♪）

でも、ものすごくストレスが溜まった!!「愛とは自己犠牲である」なんて（勘弁してヨ。）ヌケヌケと言ってのける、話のわからない男と話すとホント、疲れるよ〜。

会場は年齢層が高く、若者はあまり来ていなかったと思う。遥さんによると、聴衆の大半を占めるオさまたちは、対談相手である北大教官を優しい眼差しで見ていたらしいが、私はそもそも男で「フェミニズムやってる」ヤツは胡散臭いと思っているし、その上男で口ひげ生やしているのは虚勢張っているうっとうしいヤツだと思っているので、傍から見たら私のだけはものすご〜く冷たい視線だったと思う。彼の言葉から上野さんへの批判的態度がよくわかったが、自称「フェミニズムやってます」男が上野さんを嫌いになるのはとてもナチュラルなことだと私は思う。ちょっとフェミニズムやらジェンダーやらをかじった男が上野さんに太刀打ちできないのは当たり前で、それはムカツクことだろうナと思う。ちょっとフェミニズムをかじった男がウエノチヅコを批判するなんて100年早ぇーヨ、って私は思っている。

男がフェミニズムに入ってくるとうっとうしい。遥さんが正に今回彼にしたように、フェミニズムやってる男がいたらとーぜん「男なのに何で？」とこちらは聞かざるを得ない。その、「聞かざるを得ない」こと自体がよくわからない、という男は、その男がフェミニズムをわかっていないことの何よりの証左だと私は思う。今回の北大教官も、何でそういうことを聞かれるのかなあ。。。？という風だった。以前瀬地山さんと話したとき私は瀬地山さんにも当然質問した。あまりにも何度も同じ質問を受けてウンザリするのはわからなくもないが、だって、それだけトンデモないことしてるんだから、聞かれるの当たり前だよ、っ

て思う。瀬地山さんはウンザリして説明をしてくれなかったが、後で彼の著書を読んで、要はオンナとの恋愛で目覚めたのだと判り、納得した。男がちゃんとフェミニズムに関心を持つきっかけはそれ以外に考えられない。でも、好きなオンナとモメタから、となぜ男はストレートに言わないのだろう。何かかっこつけてキレイ事並べるのよネ。「自分が好きな女との関係に悩んで」っていう説明なら本当に説得力があるのに。今回の北大教官も、きっかけは要は「結婚するときどちらの姓にするかでモメた」っていうことだった。それは説得力がある。

男がフェミニズムをやることはすなわち自分を否定することにつながりかねないことなのだから、ナンでわざわざそんなことするの？って疑問を出されるのは当たり前だ。フェミニズムをやったら自分がしんどくなる。聖人君子でもない限りそんなことやりたくない。現在、北大教官は「男性学」の方に関心をもっているという話をしていたが、どうぞ「男性学」とかいうものをやっていてほしい。それが正直だし、正直にならないとこちらも議論のしようがないし、正直じゃない議論は不毛だ。少なくともフェミニズムやっている女は単なる知的好奇心のための議論をするほどヒマ人じゃない。生きるためにやっているのだ。

大体、“だんせいがく”って何？「男性も被害者」というけれど、その場合害を加えているのは誰？男同士の争いの中で結局「男らしさ」の神話(←これは男自身が作った。)に乗っかれなかった男が乗っかった男に虐げられている、という構図ではないのか？そんなこと女に訴えられても知らない。男同士の間で決着つければ？と思う。

最近の上野さんのことをあまりよく知らないが、遥さんが言っていたように「男性も被害者だから」という風に理解を示す姿勢になっているのだろうか。。。？私は根本的に上野さんには諦観があるように思う。(というか、そもそも頭の悪い男を相手に話すことにもーウンザリしているんじゃないかなあ。。。)それはフェミニズムに目覚めちゃった女なら誰でも、程度の差はあれ、もっているものだ。遥さんも(今回ご自分で言っていたように)そうだし、私もそうだ。少なくとも自分が生きているうちに女がこの苦しみから解放される社会は実現しないだろう。男はわかっていない。わからない。だから、「わかっていない」ことだけわかっていてくれればいいのだ。(「無知の知」ですネ。)それを、ちょっとフェミニズムをかじってわかったような顔している男が一番厄介だ。頭のいい男は自分が性差別のことをちゃんとわかっていないことを知っている。まして女に対して「男も被害者だ」なんて自分を正当化しない。

「一般的に」マイノリティに関心がある、という人間を私は胡散臭いと思うし、信用しない。その人自身がマイノリティとして差別された何らかの体験をもたない限り、所詮は高見の見物であり、おママゴトだからだ。

北大教官はひとしきり上野千鶴子批判を並べた後、でも、学生が「上野さんの本を読んで、自分の抱えていた、わけもわからず悩んでいた問題が何なのかクリアになり、それをちゃんと見えるようにしてもらった」というようなことを言っていたので、上野さんの功績はまあそんなトコロにあるんでしょうかネ～、みたいなことを言っていた。それがどんなにものすごいことなのか全然わかっていない風だった。それがわかっていないというところにも、浅はかさを感じた。女がほんとうに長い長い間、自分の抱える問題についてそもそも言語化することさえできなかったというのは、フェミニズムを知っている者なら常識だ。「言葉にする」こと自体が画期的なことだったのだ。(私の場合、その最初はボーボワールだった。「第二の性」を読んで私は自分の眼の前がさーっと開けたように感じた。)

。。。ということで、今回の結論。→札幌市市民局男女共同参画課の人選に不満がある。「ちゃんとした」人をよんでほしい。ちゃんとフェミニズムを勉強している人。それは今の日本では女に決まっている。ナンで私たち女がわざわざ、ちょっとフェミニズムをかじった男の話を拝聴しなくちゃいけないのか？私の大事な血税をこんな人間に講演させるために使うな～っ！！

糾弾！！

駐韓米軍、2人の少女をひき殺した米兵に無罪を評決！

大阪　中條佐和子

１１月２０日、２人の中学生を戦車でひき殺した米兵の１人（管制兵）に対して、駐韓米軍の軍事法廷は無罪判決を下した。管制兵は、７人の陪審員はみな米兵、裁判官も検察も米兵という軍事裁判で裁かれた。加害者たちが加害者を裁くという被害者や遺族、韓国民を愚弄するような裁判である。陪審員が無罪を評決すると検察は控訴できないというアメリカ刑事裁判手続きによって、この管制兵の無罪は確定し、裁判は「終わった」ことになるという。この管制兵に対して無罪判決が出たことで、運転兵にも「無罪判決」が出る可能性が高くなった。２人の少女が無惨な死に方をしているにもかかわらず、罪を問われる者がいないというのは一体どういうことなのか。全く許し難い判決である。

「罪を処罰するより免罪符を与えるための形式的な判決だ」と少女の父親は怒り叫んだ。今回の判決で米軍は、公務中であれば、少女をひき殺しても、人を人としてみないような殺し方をしても、兵士らの罪は問わない、駐韓米軍全体も責任を負わないということを再び宣言したのである。駐韓米軍に対して、駐韓米軍の犯罪を助長しているＳＯＦＡに対して韓国の人々の怒りはさらに増している。今回の判決は「駐韓米軍の存在に対して根本的な意義を呼び、なおさら高まった反米感情に油を注いだ。」

ＳＯＦＡの再改定が新たな闘争課題として本格的に浮上してきたようだ。大統領選でも争点になりそうだ。「ＳＯＦＡの裁判権管轄問題の不平等性が今度の事件を通じて現れた。ＳＯＦＡの徹底改定だけがこれ以上の悔しい死と非常識行為を阻むことができる。ＳＯＦＡの全面改定を大統領候補は国民の前に約束しなければならない（９団体による共同声明・２１日発表）。」民主党、ハンナラ党もＳＯＦＡの改定推進を表明しなければばらなくなった。民主労働党は「駐韓米軍に対する力強い闘争を主導する」とさらなる闘いを宣言している。

汎国民対策委員会のメンバーが基地前で抗議集会を開き血書きをしている。

汎国民対策委員会は、軍事裁判に反対し、運転兵への無罪判決を阻止するために、連日大衆的な抗議行動を全国によびかけ実施している。１２月２～９日はワシントン・ホワイトハウス前で座り込みをする。来年２月には“女子中学生殺人事件民間法廷”を開いて、韓国の人々が犯罪者を審判することを目指して準備を開始した。

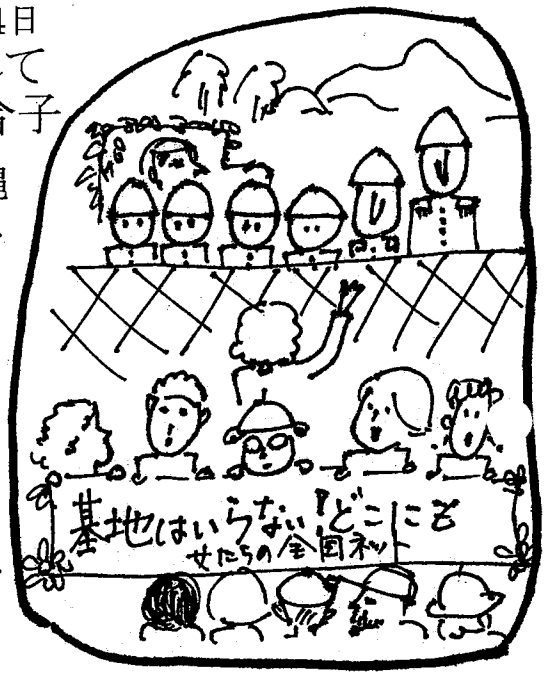
私たちも、無罪判決への怒りをこめて、国際署名をよりひろく呼びかけ、取り組みたいと思う。

「基地はいらない！　女たちの全国ネット」

in 由布院　　11月23, 24日

交流会に参加して

谷　百合子



この会は5年前、橋本首相のとき、沖縄での基地のたらい回しに物申す主旨で、沖縄から女と子ども204名が文字通り「たらい」を持参して東京に来たのをきっかけに「沖縄の女たちに連帯する会」として発足した。東京のKさんから呼びかけがあり、即入会し、以来、通信発行や交流会を度々持っている。私も東京集会に出かけたり、札幌で交流会をしたこともある。今回、九州の由布院で合宿が行われることになり、会員のみなさんから交通費カンパを頂いて参加した。

＜日出生台・日米合同演習場へまっしぐら！＞

博多から由布院までの夢の里のような風景にうっとりして、バスを降りると、金沢大のH氏の車が迎えてくれた。20分くらい走ると、そこは日米の兵士が実弾演習をしていた。教組や、地元の女たちがマイクを持ってアピールしていた。私たちも、各地から持参したピースメッセージを並べ、マイクを持った。18日に自衛隊西部方面隊の松川正昭総監が「演習は北朝鮮への抑止力である」として反対運動の中止を求める発言をし、この事への抗議が多かった。矢臼別の合同演習反対にも、片道８時間、車で走っていったことがある。日出生台も、のどかな、それは静かな里村である。沖縄の痛みを分かち合うという、とんでもない名目で、日米合同演習がどんどん広がっている。

＜由布院の公民館で女たちの会＞

沖縄の高里鈴代さんは、今回の知事選の結果で、みんな元気がないと前置きで話されて、これからは、基地の跡地利用や、ゴミ産廃に取り組んでいきたいと報告があった。ニュースの見出しにも、沖縄の革新は壊滅状態と書かれているとの事。苦しい時代である。

名護のヘリポート建設反対に取り組んでいる真志喜トミさんは、「基地でもらったお金はすぐなくなるし、たとえ15年で基

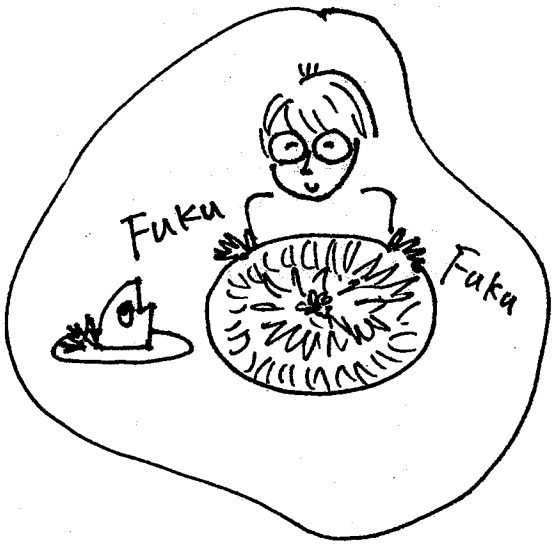
地が撤去されても汚染された海が残るだけ。このままの海があれば私たちは千年も万年も生きていくすべを残せる」と話された。「1995年のあの少女の声を決してかき消しては行けない」と、沖縄のアメリカ領事館前で毎週金曜日の12時から13時、3名以上になったら座り込みを続けている。この「金曜集会」は台風のときにも30名で決行したとのことである。

大坂の中條佐和子さんからは、在韓米軍による2少女ひき殺し韓国追悼集会に参加した報告があった。ビデオ上映もあり、事件のむごたらしさは目を覆う状況である。兵士は無罪！　怒りは韓国も日本も同じである。中條さんを招いて2月22日に「基地と女性への暴力を許さない」集会を計画している。

＜無名の女たちの点を線にしていこう＞

今回の会はほぼ30名の参加があった。彼女たちは有名人ではないが地元でしっかり活動を続けてきた人たちで、頼もしい限りのリアリティが感じられた。何の行動もしていないのに、わけしり顔で講演をし、高額のお金を持ち去る有名人にはもう頼らなくてもいいと思っている。女たちは「私が主人公」の時代をつくらなくてはね。

＜北九州で生まれて初めてふぐさしを食す＞



八幡製鉄の朝鮮人強制連行で裁判をしていた人々の集まりに出た。北朝鮮出身で在日韓国人の裵（ペ）さん手作りのキムチと72歳になる岡添さんの「ふぐさし」を頂いて、元気をいっぱいもらって帰ってきた。米英によるイラク攻撃は一部ですでに始まっており、市民の痛ましい死が伝えられてくる。日本の各地では日米合同演習が本格的戦闘態勢に入り、自衛隊がアメリカの戦闘に協力できるように法改正をしようとしている。今一番犯罪的なことは、無関心と何も行動しないことである。誰と何を一緒にしたらいいのか、見えた旅でした。

説明責任は根付いたか？

K．S

はじめに

私が、カレル・ヴァン・ウォルフレンの「人間を幸福にしない日本というシステム」（１９９４年１１月毎日新聞社刊）という本に感銘を受けたのは６年前のことである。刊行後２年程度経過して手に取った遅まきの読者であった。今再読して、本の内容に古さは感じられない。つまり日本は彼の警告にもかかわらず８年もの間さしたる変化を遂げることができずに推移し、経済環境もバブル崩壊とは別の要因も加わり複雑さを増しつつ低迷が続いているといえよう。

［ウォルフレン以前］・・・日本の文化？

さて、いわゆる「日本人論」が大好きだった私は、ルース・ベネディクトの「菊と刀」、中根千枝の「タテ社会の人間関係」、土居健郎の「『甘え』の構造」、会田雄次の「日本人の意識構造」といった本や、書名は忘れたが、暉峻淑子、外山滋比古、板坂元等々の方々の本を読み漠然と以下のような思いを抱いていた。

『日本人は基本的に勤勉で善良であり、飛び抜けた天才はいなくとも均質化されたすぐれた教育システムのお陰で国民の学力は高い。大学で遊んでいた学生も企業がＯＪＴによって優秀な社員に鍛えてくれる。若いときは安い給料だが毎年上がっていくので住宅資金と子供の教育資金が必要になる頃にはそれなりに暮らして行けるようになっており、会社を信じて定年まで一所懸命働けば、退職金や年金もあるので死ぬまで自分と家族を養ってくれる。社宅や貸付金といった福利厚生から接待費まで給与以外のインセンティブも豊富に用意され、仕事が終わっても気心の知れた仲間同士や取引先と一杯やり、社内旅行や運動会まで至れり尽くせりの気配りにより、（実際の家庭より）居心地のいい仮想家族ができあがっている。こうして醸成された一家意識のため、会社の命令でいわゆるダーティな仕事や不正を行ったとしても「会社のため」にやったことであり、「会社に貢献」できたことで良心の痛みは小さい。（会社も応分の措置を取ってくれる。）・・・会社という言葉を役所その他の名称に置き換えればいろいろな組織に適用できる。

経済と政治は二流でも、国家は優秀な官僚が舵を取っている。（東証一部上場の民間に比べれば）安い給料にもかかわらず、時間外勤務手当が全額出なくとも、不夜城で夜食と仮眠しかとれなくても国民の為に必死で働く彼らが日本の驚異的な経済成長を支えてくれた。』

→私たち日本人はもともと働くのが好きであり、集団活動を好むのは民族としての文化である。

→官僚に任せていれば日本は安泰である。

［ウォルフレン直前］・・・きっと大丈夫！

バブルがはじけ地価と株価がどんどん下がっても、きっといつものリセッションと同じようにまた回復するとばかり思っていた。なぜならば景気の谷ごとに政府も評論家も危機感を煽り日本経済はもう終わりだお手上げだと叫び尻を叩いてきたが、そのたびに××不況が○○景気に変わってきた歴史があるからだ。要するに「おおかみ少年」現象である。景気については政府や財界もこんなに不況が長引くとは思っていなかった節がある。　**→なんだか今までと違うけど本当に大丈夫なの？**

目から鱗のウォルフレン

国民が抱いてきた「日本人論」のイメージはもっともらしく見えるが「偽りのリアリティ（現実）」であり、「政治化された社会」である日本では市民は生きにくさを感じ幸福にはなれないシステムができあがっている。しかし、これに従うのは「しかたがない」ことではなく、幻想（有害な惰性）を突き破る力は市民にあると力づけている。一方、リスポンシビリティいわゆる責任とは別に、「アカウンタビリティ（説明する責任）」という概念を紹介し、『アカウンタビリティシステムの主眼は恣意的で不明朗な権力を排し、古い政策がもはや人々の利益にならないとはっきりしたときに、すみやかに新しい政策を採用しやすくすることにある。』としている。これが欠如している日本においては、誰が国を動かし、どこへ向かっているのか不明なまま「アドミニストレーターズ（管理者たち）」に操縦される「官僚独裁主義」の危険性を指摘している。官僚は自分の判断や行動を社会に説明することなく法を作ったり、好きなように解釈する権限を持ってきたが、それぞれの省益を優先させる結果、全体として国民のための利益になっていない。また、日本の国全体が、何事も誰の判断で行ったかが不明瞭な組織体なので、誰も責任を取らない。これが大きな問題であるが、政治家，官僚，企業家といった人達が説明する責任を果たし、市民もまた説明を求めることで日本はもっと居心地よい住み安い場所に変わり得るという可能性を示した。

現在では、与野党問わず説明責任を自ら口にする政治家が多くなり、行政も情報公開と相俟ってアカウンタビリティの概念を取り込んでいると思われる場面が増えてきた。各種審議会の両論併記も選択肢を示すという観点から決して悪いことではないと思う。医療現場でのインフォームド・コンセントも根付きつつある。ただ、説明を聞いた国民がもっと活発にいろいろ議論してもよいと思うのだが・・・。

→なんだそうゆうことだったのかとわかった人が日本を変えて行く！

来年の予告

サザエさんの波平お父さんやますおさん（いわゆるサラリーマン）が家族と一緒に夕食をとれなくなり、あなたはいらないと急に告げられる恐怖や住宅ローンを払えない恐怖を多くの人が抱えている。自殺，倒産自己破産，失業，うつ病，ホームレスが増加し、刑法犯の検挙率は１９．８％と欧米諸国を下回るまでになった。今が本当の危機なのかもしれないけれど、取り敢えず揃うものは揃っているから深刻にはなれない。物騒な世の中だなあと思っても今日いきなり強盗にあって死ぬとまでは考えてない。

鋭い分析と実効性のある提言で私に希望を与えたウォルフレンはその後何を考え、どのような処方箋を提案してくれているのだろうか。彼の意見を参考に日本の社会に対する自分なりの提言を行ってみたい。読書から遠ざかって久しいが、正月休みに読むことにしようと取りあえず図書館で見つけた次の本を借りてきた。来年のいつになるかは不明ながら是非発表したいと考えているので、（期待しないで）待っていてもらいたい。

※１～３はウォルフレン著

	書　名	出版年	出版社
1	なぜ日本人は日本を愛せないのか（この不幸な国の行方）	１９９８年	毎日新聞社
2	アメリカを幸福にし世界を不幸にする不条理な仕組み	２０００年	ダイヤモンド社
3	ウォルフレン教授のやさしい日本経済	２００２年	ダイヤモンド社
4	ウォルフレンを読む　関　曠野編	１９９６年	株式会社窓社

Information

1月18日（土）～19日（日）　イラク全面攻撃に抗議する日米同日同時行動
（場所等は来年に入ってから新聞・ＦＡＸ・メールで発表があります。）

1月31日（金）　映画「明日の風に向かって－ありのまま舎物語」
会場：道新ホール（中央区大通西３－６　221-2422）　１８：３０～
前売券　一般1，３００円　小中高８００円　親子2，０００円
当　日　　1，５００円　　９００円　　2，３００円
《進行性筋ジストロフィー患者の主人公が自ら発想し、民間初の「自立ホーム」開所にこぎつけるまでの愛と感動の物語です。時代を超えて上映できるアニメーションという形で製作しました。》
※前売券は谷さん（６６４－０６３２）まで

2月　1日（土）　性教育学習会「結婚制度から見えるジェンダー」（仮題）
会場：女性センター　サークル活動室Ａ　１３：３０～　参加費：５００円
主催：性教協いしかりサークル　※詳細は細田さん(６４４－２９２７)まで

2月14日（火）　「バングラディシュの経験から」
コミュニティ・ビジネスの可能性と課題
会場：かでる２．７　５２０号室（中央区北２条西７丁目）
１８：３０～２０：３０　参加費：1，０００円
講師：大橋政明（大学教員，ＮＰＯ法人代表理事）
主催：ＮＰＯ法人さっぽろ自由学校「遊」
コミュニティ・ビジネスをつくろう＜公開企画＞

2月22日（土）　「駐韓米兵による２少女ひき殺しを許さない！」
大阪から中條佐和子さんを迎え、韓国の追悼集会報告を行います
基地と女への暴力を考えよう
会場：リンケージプラザ　２Ｆ（中央区北１条西１０丁目　スピカ隣り）
主催：無防備・非核ネットワーク　北海道　谷百合子（６６４－０６３２）

§あとがき§
なんとか１２月中に発送できそうではありますが、到着は新年になりそうです。
来年が、皆様にとって充実した良い年でありますように☺